

会 議 記 録

作成部局課名 丸子地域自治センター 地域振興課

開催日	平成 22年 3月 12日(水曜日)	開催時刻	13時 30分から 15時 52分
会議名	丸子地域協議会(平成 21年度第 12回)		
出席委員	浅倉委員、生田委員、大森委員、片桐委員、木下委員、甲田委員、笹井委員、笹沢委員、滝沢(浩)委員、武井委員、竹花委員、成澤(啓)委員、成澤(み)委員、宮坂委員、村松委員、柳原委員 【欠席】倉沢委員、滝沢(俊)委員、土屋委員、本間委員		
市側出席者	関丸子地域自治センター長、大平地域政策担当係長、中村地域政策担当主査		
会議次第			
1 開会(関センター長)			
<p>2月 28日付けで佐藤地域振興課長が退職し、3月 1日から私センター長が地域振興課長・事務取扱の兼務になっています。よろしくお願いします。</p>			
2 会長あいさつ(片桐会長)			
<p>本日の会議は、平成 22年度わがまち魅力アップ応変事業のプレゼンテーション・選考をさせていただくわけですが、会場の移動等もございますので、スムーズに事が運びますように、余裕を持って会議を進めてまいりたいと思います。</p>			
3 報告事項			
(1)わがまち魅力アップ応援事業・平成 22年度事業の選考について			
・事前打合せ(事務局)			
<ul style="list-style-type: none">・ 選考調書(継続事業分)について プレゼンテーションは新規事業のみなので、継続事業の選考調書については、プレゼンテーションの前に提出していただきたい。プレゼン選考の最中に継続事業の集計を行いたい。・ プレゼンテーション 午後 2時から 4団体のプレゼンテーションを予定。各団体 5分程度で事業内容を説明し、その後、委員から活動についてのアドバイス、質問意見等を出していただきたい。その時間を約 10分、合計一つの団体で 15分、約 1時間のプレゼンテーションを予定。4団体のプレゼンテーションが終わったところで、点数をつけた選考調書を事務局へ提出していただき、事務局で集計する。採点は 5段階評定で、一人 25 点満点、委員ごとに合計し、最高点と最低点を除外して、その平均点の 10点以上をまず基準とする。丸子地域としては前回協議した通り、13点を採点基準とし、13点以上は採択、10点以上 13点未満は採否を検討していただく。・ 選考協議の非公開について 上田市の自治センター条例により、選考協議は非公開とさせていただきます。			
(会長)採点の集計がまとまった後に、この会場で選考協議を行うが、非公開としてよろ			

しいか。

委員から「はい」という声あり。

(センター長)プレゼンテーション資料を委員に配布してあるが、これは団体が意見として、公益性等5項目について記入したもの。差し替えてくれという団体があったが、ご遠慮いただき、その分をプレゼンテーションの中で補っていただきたいと考えている。それから、プレゼンテーションの中で、この資料以外にパネル等を今日用意してきて、それを見ながら説明するとか、資料を委員に回して見ていただく団体があった場合は、それは認めていきたい。

(事務局)本日プレゼンテーションの4団体に所属している委員は採点しないで、席も離れて、後ろの席へ移動していただくことで公平性等を保ちたい。

資料 1. わがまち魅力アップ応援事業・平成 22 年度事業選考について

主な質疑の内容

(委員)時間をオーバーする団体も見受けられる。打ち切るか、時間を認めるのか。

(会長)各団体のプレゼンテーションは、時間どおり5分とする。

決定事項等

・選考協議については非公開とする。

・プレゼンテーション

・新規事業 4 団体のプレゼンテーション及び主な質疑応答

依田城登山道・岩谷堂遊歩道を活かした歴史の道づくり(小鍋立ての会)

小鍋立ての会は、砂原峠にあった小鍋立ての湯から名前を借りた。平成 16 年に発足し、当時御嶽堂の砂原峠・日向池周辺の美化活動の一環として、遊休農地の有効利用、産廃業者を阻止するためのそばづくりを始めた。日向池の水質改善の為にいかだ式浄化システムの導入も行っている。小学生との交流そば打ち会、高齢者とのそば打ち会も行い、色々コミュニケーションができています。今回、依田城登山道がだいぶ傷んで、毎年子どもの日に子どもやPTA、地元の有志の人達の登るのにとっても危険になってきたので、会員や自治会の人達で修復作業を行う。また、長野、新潟、富山の3県が、NHKの大河ドラマ放映を望んでいる、その時の為に備えておきたい。

(委員)視察したが大変な急坂なところで安全についてはどうか。全長何キロあるか。がけ崩れの心配ないか。

(小鍋立ての会)以前丸子町の頃に登山道を整備してもらったが、毎年、こいのぼり、幟立てをやっていて、子ども達に危険になってきているので、自分達でやれば、予算が少なくできるのではないかと思いこの事業に参加した。自分達でできないところは、専門の人達に教わりながらやる形で、材料費だけでやりたい。距離は、全部で 1,200

メートルくらい。登るには子どもで 40分くらいの距離。急で危ないから登山道を整備したい。登山日誌が上に置いてあり、景色が良く、他県からも登る人も最近増えてきた。

(委員) ずっと後継者を作って続けてもらえば良いと思う。

(委員) 御嶽堂は 4地区だが、南原地区に会員がいないが、参加者がいないのかどうか。

この事業は今年度だけで終わって、来年度は補助金はなしで管理をするのか。

(小鍋立ての会) 来年度まで 2年間かけての事業。南原は、参加は呼びかけてはいる。難しいが、だんだん浸透していけば良いと思う。

(委員) 出来るだけ多くの地域に声をかけて、後々続くようにやっていただきたい。

(委員) 登山道の歩道整備は、登っていただくのが一番の目的で、整備は手段だが、登っていただくためには、できるだけ周辺の人に PR していくとか、イベント的なものと抱き合わせでやっていけば、多くの人に知ってもらう可能性が出てくると思う。そういうイベント的なものを考えているのか。

(小鍋立ての会) 昨年の木曾義仲拳兵武者行列のときに、狼煙を提案したのは私達で、何かあったときには狼煙あげをやって、だんだん広げて行きたい。

(委員) できるだけ多くの人に利用していただける手立てを考えていっていただきたい。

江戸時代の郷蔵をはじめとする歴史遺産を生かした飯沼(飯沼史学会)

地域に残されている歴史遺産をいかに良い状態で後世に受け継いでいくのかが一番の目的で我々に与えられた課題だと思っている。それには地域の皆さんに認識していただくために、一番効果的ではないかと思い説明板などを設置する。飯沼には歴史的価値があり、後世に伝えていかなければいけないものが幾つかある。まず郷蔵が設置された経緯、目的など解説板の設置、明治後期から大正にかけて、開かれていた飯沼青年夜学会について説明したい。また、飯沼神社の脇にある、ここで学んだ方々が恩師の為にたてた石碑、工作場跡、藩士の石碑、横濱の大番頭の生家、真田屋敷などの案内板や説明板を作りたい。ほかにも、現在整理中の古文書の書簡類からも新しい事実が浮かび上がっていて、地域の住民の方々に認識してもらい良い状態で後世に伝えていきたい。

(委員) 郷土に伝わる貴重な歴史遺産を次代に伝えることは本当に大事なことだが、老朽化して今にも崩れそうになっている郷蔵の保存をどのように考えているか。

(上田飯沼史学会) 我々が建設業者をお願いして直すことは可能だが、それをやってしまうと、果たして文化財としての価値が維持されるのか非常に疑問。専門の歴史家に専門的な判断をいただいて処理しないと、せっかく修理しても文化的価値がないといわれればそれまでなので、我々の力では今のところなんともできない。おそらく自治会、市単位ではできないと思うので、なにか良い考えがあれば教えていただきたい。

(委員) 飯沼の古文書も大変貴重で素晴らしい研究だが、予算案の半分以上が講師の費用。地元の先生方をお願いするなど少し変えていかないと、事業に補助金がつかないと、どう研究していくのかが不透明で、どのようにやっていくのか。

(上田飯沼史学会) 今、大学の先生にご指導いただいて、そこから得た知識を我々に移行していく段階で、興味の湧いてくる古文書も発見されているので、興味があればまた突き進んでいけると思っている。

(委員) 講師の謝金への補助金がないときの事業継続については理解に苦しむが、こういう歴史研究は大変重要なことだが頑張ってください。

(委員) 地元にも立派な古文書を解読できる先生が何人もいる。地元の資料を長い間保存、調査をやっていくためには、地元の先生方に協力を仰いでいくことが一番大事ではないか。東京から先生を呼ぶのはその都度という話なので、地元の先生に出来るだけ協力いただき、長い間継続して勉強会を含めてやっていただく体制をとっていただいた方がよいのではないか。

(上田飯沼史学会) 大学の先生の研究対象になっているので、我々は資料を提供して、その見返りを返していただければそれで良いと思っている。新たに、地元の先生達に協力を仰いだ時にどのくらい費用がかかるのか検討してみないといけない。今は、大学の研究対象になっているので、交通費、宿泊費程度で済んでいる。

(委員) 学術的に先生に提供することよりも、やはり地元でいろんな資料を活用していく、自分達が知って自分達のものにしていくことだと思う。

(上田飯沼史学会) 今、古文書類は分類されているが、貴重な資料が含まれている書簡類を今整理しているところで、どういうものがあるのか我々では分からないので、約5000点の中で今、2300点くらい整理し、これが分かった段階で地元の先生に意見を求めることもありうる。まずどういうものがあるかを知ることが先だと思う。

(委員) 日本女子大と東京大学が両方来ているが、どこかゼミで担当しているか。もう一つは、東大の資料研究所の先生を呼んでいるか。

(上田飯沼史学会) 東大は大学院の歴史課程の学生で、専門の分野が幕末から明治にかけてということで協力いただいている。日本女子大の先生は、横濱開港資料館の方と共同してゼミを開いていて、その生徒と一緒に来て調査している。教授が2名とゼミの都合のついた生徒が2、3人来て手伝うという状態。

(委員) 今まで解読された古文書に関しては、例えば古文書が読めない方でも読める状態になっているか。読み下し文にしないと、やったという証にはならないと思う。

(上田飯沼史学会) 解読された分、講座で使用した分、一昨年に新しく発見された資料の中で重要なものは、去年の150周年の横濱開港資料館の展示で、4点ほど持って行っている。

(委員) それは見たいと思ったら誰でも見られるか。

(上田飯沼史学会) 見られる。

腰越花の里マップ作り(腰越花の会)

数年前に、住民提案型事業、並びにわがまち魅力アップ応援事業の資金をいただき腰越地区に1,000本からの花桃を定植し、やっと花桃が咲き始め、来年あたりから花

桃が身頃になると思う。そこで今度は、美しい花の里を多くの方に紹介して、地域の活性化に結びつけるためにも、腰越花の里のマップを作ろうと新たに会員を募集し、腰越花の里をアピールしていこうと思っている。まずマップを作り、商店、有効性のある場所に配布する。また、ホームページも開設し、花桃はもちろん、深山のつつじも紹介する。腰越にある有数の景勝地、旧跡などの情報もここに載せて紹介したい。ホームページは、何人かで情報提供をしていきたい。5月の連休には、試験的に花桃のイベントも計画中。

(委員) 地域が発展し、素晴らしい里になりつつあると期待している。この事業は今回、かなりの部分がパソコンの講習会だが、これがどのような範囲の人に反映されるのかが疑問。もう一つ、もっと広域でマップづくり、丸子地域で出したらどうか。

(腰越花の会) それはそれでぜひお願いしたいが、地元は地元で花の里をアピールしていきたい。

(委員) ホームページをつくるということで、パソコンのレンタル、講習会とあるが、どんなふう以後の効果になるのか。

(腰越花の会) ホームページを開設する。会員で10人くらいがそこに集まり勉強会を開き、ホームページをアップできるようにし情報提供していく。ホームページはアクセスが一番の問題だが、上田市からもホームページへリンクし、いつ頃から咲くかという質問にもすぐ回答できるツイッターみたいな状態を作りたい。その10人全員がわかるわけではないので、その勉強会がものすごく大変で相当な金額かかる。

(委員) 腰越花の会としてのホームページじゃなく、何人もホームページを開設するという解釈か。

(腰越花の会) ホームページは一つ作り、そこへ色々なことが情報提供できる。

(委員) ホームページの立上げは有料か無料か。

(腰越花の会) 作ってもらうのは業者に頼んで有料。

(委員) もし地域の中でやるのだったら、そんなにお金をかけなくても良いのではないか。知識ある方をお願いすれば、書き込みもセキュリティの問題も可能ではないか。ホームページを立ち上げた後の維持費はどうするのか。無料でものを使うと達成しないか。

(腰越花の会) 立上げだけで、後は自分達でアップできる。ボランティアでやってくれる方がいたらぜひ紹介していただきたい。

(委員) 花桃の素晴らしい環境をぜひ発信していただき多くの方に届けていただきたい。質問は、観光面で観光協会、上田市との連携はどう考えているのか。10人がアップするということが自分のパソコンを使うのか。

(腰越花の会) パソコンを持っている人が対象で、パソコン講習はレンタルを使わないと一括にできない。観光協会のことはもちろん考えている。

(委員) 観光協会も含めて具体的に計画を進めていかないと、なかなか始まって行かないので、マップを十分に活用してもらいたい。パソコンはレンタルを使う意図がよくわからない。12万で講師が何人で受講者が何人か教えていただきたい。

(腰越花の会)これから新たに会員を補充、パソコンを使える方達をピックアップして、10人くらいはアップできるよう覚えてもらいたい。10人を一場所に集めて講習会をやる予定。

(委員)2人の講師が10人を集めて10回講習、延べ100人。講師2人で12万ということですね。

(腰越花の会)講習料は結構かかる。

石井道しるべ・ふるさと景観復活事業(石井千曲川の自然を愛する会)

千曲川の大屋と石井の間に昔、今の大屋橋より上流に橋があった。道しるべが刻まれた石が大石グランド横に打ち上げられたのが5年くらい前で、今は郷土博物館に保管してある。おそらく大屋と石井の間にあったもので、大屋橋のたもとにもってきて設置復活させたい。それに伴い、河川敷の遊歩道の復活と、ほたるが3年くらい前から出始めた小川の整備、マレットゴルフ場は第2と第4の土曜日・日曜日は解放して、芝生の上でサッカーや、キャッチボールなど子供の遊び場にしたい。将来は、河川敷が広いのでアウトドア、キャンプ場も作ったらどうかとも考えている。

(委員)会員は何人か。

(石井千曲川の自然を愛する会)今のところ自治会役員で始めたところだが、会員はこれから募集する。

(委員)重たい石を設置するということだが、目立つようにしてもらいたい。

(石井千曲川の自然を愛する会)丸子方面から来て、大屋橋を渡る手前の右側に花壇があるところに目立つように作りたい。駐車できるスペースもあり、とまって見ていただいても良いところ。

・選考協議

非公開

(2) 製造業の振興を狙った先進地との人・モノ・情報のビジネス交流事業の実施について

・継続協議

・主な意見等

(委員)丸子地域は、もともと長野県の中でも工業が栄えたところで、あまり遠くへ営業活動をしなくても、それなりに受注が見込めていたが、積極的に外に向かっていかなければいけない時代を迎えている。もし地域協議会で決議をいただければ、市でも新たな予算をつけることが見込まれるので、ぜひとも決議していただきたい。

(委員)まちづくり方針にも、6番目に工業振興の項目がある。分科会でもつくりながら、もっと早くにこういう提案しながらやるべきだったし、今回遅くてもぜひ決議してやるべき。この予算も遠慮した予算なので、もっと必要であれば付けながら、ぜひ決議をし

て、工業の発展に少しでもやるべきでないかと思う。

(会長) このビジネス交流事業について、地域予算の活用も含め、地域協議会としてバックアップしていくことを了解してよろしいか。

委員から「はい」という声あり。

(会長) 委員の了解をいただいたので、市では事業実施、製造業の振興に取り組んでいただきたい。

4. 調査研究事項

(1) 全体会議

カネボウ食堂棟活用検討専門部会の報告(部会長)

・本日この全体会議が終わった後に、専門部会で最終的な活動の報告のとりまとめを部員全員で行いたい。最終報告は3月19日の全体会議で報告させていただきたい。約4か月の活動期間ということで、十分な活動ができてないので、基本的には、次期協議会のほうに申し渡し引き継いでいきたいと考えている。

(2) 専門部会

・地域協議会終了後に開催。市民室。

5. その他

・「教育委員会事務局体制の改革」提言書について(地域振興課)

1月25日に上田市行財政推進委員会より上田市へ、「教育委員会事務局体制の改革」の提言があった。情報の提供として資料を配布したので、ご覧いただきたい。

資料3 「教育委員会事務局体制の改革」提言書

・次回・最後の協議会の日程について(事務局)

・次回地域協議会の日程

3月19日(金曜日)上田市わがまち魅力アップ応援事業平成21年度事業実績報告会、終了後に第13回丸子地域協議会を開催。会場は「丸子文化会館小ホール」。資料は後日送付予定。

資料4. わがまち魅力アップ応援事業平成21年度実績報告会(丸子地域)の開催について

6. 閉会